

授業概要

近現代の代表的な短編の作品を読んでいく。作品の表現を吟味しつつ、そこにどのような主題が潜んでいるのか、そこに作家の個性がどのように反映されているのかということをつかえるとともに、読解によって得たものを的確な日本語で表現できるように指導する。それによって、個別の作品を理解するとともに、それを生み出した作家の個性を知り、さらに彼ないし彼女が近代日本の時代社会をどのように生き、捉えたのかを理解することを目的とする。春期におこなわれる講読Ⅰでは明治・大正期の作品を読み解いていきたい。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー作品・作家・社会の連関
第 2 回	森鷗外『舞姫』を読む1
第 3 回	森鷗外『舞姫』を読む2
第 4 回	森鷗外『舞姫』を読む3
第 5 回	森鷗外『舞姫』を読む4
第 6 回	谷崎潤一郎『秘密』を読む1
第 7 回	谷崎潤一郎『秘密』を読む2
第 8 回	谷崎潤一郎『秘密』を読む3
第 9 回	志賀直哉『児を盗む話』を読む1
第 10 回	志賀直哉『児を盗む話』を読む2
第 11 回	志賀直哉『児を盗む話』を読む3
第 12 回	芥川龍之介『地獄変』を読む1
第 13 回	芥川龍之介『地獄変』を読む2
第 14 回	芥川龍之介『地獄変』を読む3
第 15 回	芥川龍之介『地獄変』を読む4
第 16 回	まとめー近現代文学の主題と表現

到達目標

- ・代表的な作家による作品の特質が捉えられている。
- ・作品に時代社会の姿がどのように織り込まれているのかを語ることができる。
- ・作品の主題と表現の間にどのような関係があるかを説明できる。

履修上の注意

・この作品は講義と演習の中間的な形態で行われる。教員から作家・作品について導入的な紹介、解説を行いつつ、受講生も主体的に作品を読み、意見を発表することが求められる。近代文学の専攻者である必要はないが、ある程度近現代文学を読むことに興味を持っていることが望まれる。

予習・復習

・この授業は受講生が作品を読んでいることを前提として行われる。したがって、授業で扱われる作品を必ず事前に読んでおくこと。また小レポートの提出が課題となるので、それを書くための事後的な学習が求められる。

評価方法

・期末レポート（50%）、各作品について的小レポート（40%）、授業参加態度（10%）によって評価する。

テキスト

- ・各作品のテキストは、教員がそれぞれコピーを準備し、配布する。